

委員会活動 報告書

日本技術士会中国本部防災委員会

事業名称	<p>「みんなで考える防災教室」第3回講習会 主催：廿日市市市民活動センター 共催：公益社団法人 日本技術士会 中国本部防災委員会 共催：廿日市市防災士連絡協議会</p>
実施時期	2023年9月9日（土） 14：00～16：00
実施場所	廿日市市市民活動センター
参加人数	21名（市民15名，技術士会：青原、山下、福田、香村、佛原、乗安）
事業内容 と感想	<p><u>テーマ：「警戒・避難（ハザードマップの見方とマイタイムラインの作成）」</u></p> <p>今回の講座は廿日市市が作成した地区ごとのハザードマップの利用と広島県版のマイタイムラインの作成をテーマとしたものである。</p> <p>1.講座の内容</p> <p>①土砂災害と洪水災害の概要。</p> <p>第一回の講座を復習し、改めて崖崩れ・土石流・浸水災害について過去の被害を写真と動画で振り返った。崖崩れでは平成26年広島豪雨災害山本地区の崖崩れの被災者の証言を紹介した。土石流では平成30年西日本豪雨災害の熊野町川角大原ハイツでの被災者の避難行動について紹介した。浸水被害では2015年の関東豪雨災害の鬼怒川氾濫について紹介した。</p> <p>②ハザードマップとマイタイムラインの説明。</p> <p>廿日市市が作成しているハザードマップを紹介し、急傾斜地と土石流の警戒範囲および特別警戒範囲の指定の手順を説明し、浸水被害では計画規模と最大規模の浸水範囲と浸水深の違い、降水量の想定の違いを説明した。</p> <p>③ハザードマップの確認とマイタイムライン作成演習。</p> <p>参加者には居住している地区のハザードマップをもとに、自宅の確認、避難所の確認、避難経路の確認をしてもらった。廿日市市では緊急指定避難所として各地区にある市民センターが最初に開設され、人数に応じて順次他の避難所が開設されることを説明した。また、要支援者の避難について名簿の入手、個人避難計画の作成、要支援者の避難支援行動について説明した。浸水災害では垂直避難も可能であるが、浸水継続時間を確認し、必要期間の水と食料の備蓄を確保しておく必要があることを説明した。</p> <p>マイタイムラインの作成では避難前の準備について、誰が、何を、どのくらいの時間で準備できるか。どのタイミングで、誰と誰がどこにどのくらいの時間で避難できるかということを考えてもらった。</p>

2.受講者のアンケート結果

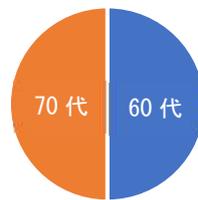
①受講者の感想

- ・いざという時に迷わないように家族で話し合い訓練することが必要。
- ・マイタイムラインを地区の住民に教えることに苦労している。本日の講座はわかりやすく参考になった。
- ・本日の講座は旧廿日市全体のものであったが、個々の地区ごとの特性をレクチャーしてもらいたい。
- ・わかりやすい内容で勉強になった。
- ・自身の防災に対する意識が高まった。
- ・自宅周辺は浸水継続時間が3日と聞いたので、対応を考えたいと思った。
- ・自宅は地震、津波、高潮が被害の対象であり、その時の対応と地域のために何をすべきか教えていただきたい。
- ・この様式のマイタイムラインは作成しにくかった。

②質問結果



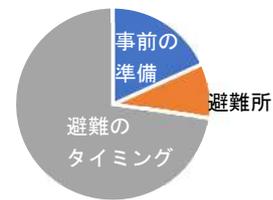
性別



年代



ハザードマップ・マイタイムライン演習について



マイタイムライン作成で難しかったところ



講座の風景



講座の風景



演習の風景



演習後の発表